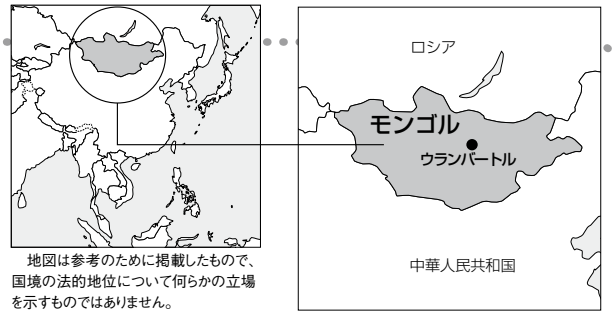
ユニセフ子ども物語
地球に生きる子どものくらし

Mongolia

モンゴル



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

ウランバートル郊外に移り住んだ遊牧民のくらし

ウランバートル市郊外に住む ボルロちゃん一家

ウランバートル市郊外、バヤンズルフ地区の小高い丘に住むボルロちゃんは、11歳の女の子です。お兄さん、お姉さん3人と弟、妹4人の8人きょうだいで、お父さんとお母さん、おばあちゃんをふくめて11人の大家族です。

ボルロちゃん一家は、6年前までは遊牧民でした。広々とした草原。真っ青な空。果てしない大地。雨あがりの空にかかる美しい虹。ゆったりと草をはむ放たれた羊と山羊の群れ。それがみんな、思い出になってしまいました。おばあちゃんは、ときどき懐かしそうにかなたに広がる草原を見つめています。

寒い冬が遊牧民を直撃

草原の夏は、昼間は30度近くまで気温が上がることがありますが、夜は10度くらいに下がります。冬はマイナス30度以下、寒い冬はマイナス40度にもなります。

ボルロちゃんがまだ小さい頃に、とっても寒い冬が2回あり、飼っていた羊、山羊、馬などが半分くらい死んでしまいました。それでも、お父さんは草原でがんばったのですが、収入が少なくなり放牧をやめざるをえませんでした。ボルロちゃん一家は、草原を離れ、ウランバートル市郊外のこの地区に移住してきました。住まいは、草原で使っていたゲルというフエルトで造られたテント状の家です。家畜を失った多くの遊牧民が、ボルロちゃん一家と同じようにウランバートル市郊外にやってきて、空いている場所にゲルを建てて自分の敷地にしています。郊外に広がるいくつもの小高い丘は、ゲルで埋め尽くされつつあります。電気がきていない家もあります。水は、トラックで運ばれてきた水を売るウォーターキオスク（簡易給水施設）というところへ買いに行かなければなりません。そしてそれは、子どもの仕事です。ボルロちゃんも時々、大きなポリタンクを持って水を買いに行きます。帰りの上り坂で、何回も休まなければならないほどの重さです。

新たな出発

お父さんは材木を扱う仕事につきました。わずかな収入から始まりましたが、工夫をして少しずつ収入を増やしてきました。お父さんは、自分の手でゲルに替わるコンクリートの家を庭に建てています。造り始めて4年になりますが、外側はだいたい出来上がりました。もうすぐ完成です。野菜を育てるための温室も造っています。

この地区では、1年前に歩いて行けるところに小学校ができたので、ボルロちゃんも学校に通えるようになりました。いろいろ学び、友達もでき、嬉しそうです。また、近所には、ゲル幼稚園が造られ、もうすぐ始まります。弟のトルガ君と妹のオユナちゃんは、幼稚園に行ける日を楽しみにしています。

<文・構成：（財）日本ユニセフ協会>

物語の国
モンゴル

モンゴルは、中国の北、ロシアの南に位置する内陸国です。大草原とゴビ砂漠の国として知られています。面積は156万平方キロメートル（日本の約4倍）、人口は263万人（日本の約50分の1）。民族はハルハ族が70%以上、他はブリヤート族、カザフ族など15以上の少数民族から成ります。

©日本ユニセフ協会
大草原で遊ぶ子どもたち

モンゴルの家族の生活を支える

モンゴルの抱える問題

見渡す限り広がる大草原、無数の羊や馬を引き連れ草を求めて移動する遊牧民の伝統的な生活様式。そんなモンゴルのイメージが変化しようとしています。

かつてモンゴルはソ連による社会主義体制下の一国として、計画経済を推進し安定成長を保ってきました。しかし、急激な民主化運動が活発となり、1992年には社会主義から市場経済に移行しました。その急激な変化により、物価の高騰、失業者の増加、社会保障制度の打ち切り、治安の悪化、貧困などの問題が噴出しました。貧富の差も大きな問題となっており、貧困世帯が人口に占める割合は、33%と高くなっています。地方から都市への人口流入がたえず、首都ウランバートル市の人口はここ数年間、毎年3～4%増加しています。

モンゴル経済の大きな特徴は、現在も農牧業分野がGDPの20.6%（2007年）を占めていることです。牧業に従事する世帯は17万世帯で、多くの世帯がモンゴル全土に点在して牧業を営んでいます。その多くは伝統的な遊牧生活を送っています。しかし、草原の砂漠化、ゾド（雪害）、家畜数の増加などが原因で、草原での生活を捨てて都市部に移住し、劣悪な環境で生活せざるを得ない遊牧民が増えています。

モンゴルの子どもの状況

（よりくわしい統計は『世界子供白書2009』をご覧ください。）

項目	モンゴル	日本
5歳未満児死亡率（1,000人あたり、2007年）〔人〕	43	4
改善された水源を利用する人の割合（全国、2006年）〔%〕 ＊モンゴルでは、都市と地方では格差があります。	72	100
適切な衛生施設を利用する人の割合（全国、2006年）〔%〕 ＊モンゴルでは、都市と地方では格差があります。	50	100
平均余命（2007年）〔歳〕	67	83
国民総所得（2007年）〔米ドル〕	1,290	37,670

出典：世界子供白書2009（英語版をHPでご紹介しています。日本語版は現在製作中。）

都会へ出てきた家族へのユニセフの支援

現在、首都ウランバートルへの移住者は年間1万人以上と言われています。インフラが整備されたアパート地区に経済的な理由などで居住できない移民は、ウランバートル市郊外に位置するゲル地区と呼ばれる「都市スラム」への居住を余儀なくされています。このゲル地区では水道、下水、暖房、道路などが整備されていないため、住民の生活環境は厳しくなっています。ユニセフではゲル地区に住む人々の生活改善のために、様々な支援活動を実施しています。

●支援活動例 1　簡易給水施設（ウォーターキオスク）

ゲル地区では、遠方まで水を汲みに行かねばならない所が数多くあります。そのような地域では安全な水を供給するための「ウォーターキオスク」と呼ばれる簡易給水施設が設置されています。首都ウランバートル郊外のバヤンズルフ地区では、ユニセフとJICAの共同出資によりウォーターキオスクが設置されました。

©日本ユニセフ協会
ウォーターキオスク

●支援活動例 2　家庭教育評価

ユニセフでは人々が自分たちの生活の問題点を理解し、自らの力で改善できるよう家庭教育を重視した支援活動を推進しています。各地域の指導員が家庭の代表者を集め、衛生的なトイレについてなどの講習を行います。参加者は評価表を使って主体的に生活改善に取り組んでいます。家庭教育は「家庭教育評価表」を用いて行われ、ゲルの形をした評価表に回答し、問題点を明確にし、解決していきます。

©日本ユニセフ協会
家庭教育の講習会

「移動生活の子どもたちを守ろう」モンゴル指定募金のご案内

モンゴルの子どもたちへの支援事業は、日本全国の学校からご協力いただく募金によって支えられています。事業の内容は、①移動生活をする子どもの栄養・健康状況・幼稚園教育の機会等の調査、子どもの成長に合わせた立案、実施 ②移動式幼稚園の教員やボランティア育成の研修実施及び研修に必要な資材提供 ③ゲルの子どもたちの生活状況の把握、親への子育て支援などです。

学習や募金活動資料として、「資料キット」の貸し出しをしています。遊牧民の子どもたちの生活やユニセフの活動をわかりやすく紹介していますので、ぜひご活用ください。

指定募金資料キット

1. 事業の背景・解説（含むCD）
2. 掲示用写真資料 10枚
3. DVD「移動生活の子どもたちを守ろう」
4. 発育観察記録用紙、幼稚園の教科書
5. 子どもたちの作品

利用を希望される際は、学校事業部へお問い合わせください。
TEL: 03-5789-2014

モンゴル指定募金の送付先

口座番号
00190-5-31000

加入者名
財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「モンゴル」と記入してください。
＊送金手数料免除（窓口振込のみ）

全国の教職員が参加し、2008年7月に実施されたモンゴルスタディツアーの報告をホームページでご紹介しています。ご覧ください。
http://www.unicef.or.jp/children/study_tour/2008/mo_studytour_index.html